

資料

中華人民共和国教育部：『全日制義務教育の音楽課程の標準(試行案)』

孟 艷（岡山大学大学院教育学研究科） 奥 忍（岡山大学教育学部）

中華人民共和国教育部は2000年に日本の『学習指導要領』にあたる『課程標準』を制定した。『課程標準』は2002年までが試行期間とされている。これはそれ以前の『教学大綱』を現在の中国の教育事情に合わせて改訂したものであり、社会的な変動を受けて理念や構成方法なども大きく変えられている。試行案とはいうものの、今後の中国の教育施策の基本となるものとして提示されている。しかしながら、日本においては音楽の『課程標準』に関する論評はこれまで断片的なものしか出されていない。全体像を把握することは音楽教育研究にとって重要であると考え、ここに『全日制義務教育の音楽課程の標準(試行案)』全文を日本語に翻訳した。

キーワード：課程標準, 全日制義務教育, 素質教育, 美育, 価値観

もくじ

第一部分 前書き

- 一 課程の性質と価値
- 二 基本的な理念
- 三 課程の標準的な設計の構想

第二部分 課程の目標

- 一 総目標
- 二 学年の目標

第三部分 内容標準

- 一 感受と鑑賞
- 二 表現
- 三 創造
- 四 音楽と関係する文化

第四部分 実施・提案

- 一 教育の提案
- 二 評価の提案
- 三 課程の資源の開発と利用
- 四 教材編集の提案

音楽教育思想と教育の体系が系統的に紹介され、導入されている。指導方法は徐々に進歩し、改善されてきた。このことによって、中国の音楽教育の継承と発展のために良好な基礎が打ち立てられてきた。とはいうものの、現在の音楽教育の理念、内容、方法、手段、評価体系などは、現在の歴史的条件下で、素質教育の要求に適応することは不可能である。このような状況は音楽教育の美的機能に影響をもたらす。中国における中・小学校の音楽教育事業の発展を阻害する。音楽教育は改革を行う必要がある。

『全日制義務教育の音楽課程の標準(試行案)』(以下『標準』と略称する)を制定する。これは音楽の教育改革の重要な一環である。『標準』は教育改革を深化し、体现していることに努めている。『標準』は素質教育の基本的な精神を全面的に推進して、音楽の美的体験を核心とすることを体现しており、学習内容を活性化し、興味づけをし、多様化する。鮮明な時代感と民族のアイデンティティ存在する、生徒・児童を主体的な立場へと導く音楽実践に参加させる。一人ひとりの独自の音楽体験と学習方法を尊重する。このことによって生徒・児童の美的能力を高めて、生徒・児童の創造的な思考を発展させ、人文の素養を形成する。生徒・児童のために、生涯にわたって音楽を愛好し、学習するための良好な基礎を打ち立てる。

一 課程の性質と価値

音楽は、人類が最も古くから行ってきた、最も普遍的で感化能力のある芸術形式の一つである。音楽は、人類が特定の音響構造によって、思想と感情を表現し、他の人と交流する重要な形式である。音楽を実現することは、人類の精神生活の有機的な構成

音楽課程の標準

第一部分 前書き

中国の中・小学校の音楽教育は、建国以来その発展過程の中で大きな成果を得てきた。特に本年から、情操教育は教育方針の内容の一つとして新たに含まれた。音楽の教育事業は迅速な発展を遂げている。教師は絶えず能力を拡大・増加し、多くの面で水準を高めていく必要がある。音楽教育に関する科学的研究は著しく進歩し、多くの優秀な成果を得てきている。音楽教育についての国際的交流活動が日増しに増加してきており、国外の音楽教育を参考にした

部分である。音楽は、人類文化の一つの重要な形態であり、構成部分として、豊かな文化と歴史の内容を有している。音楽は、その独自の芸術の魅力で、人類の歴史の発展とともに人々の精神文化の需要を満たしてきた。音楽を理解すること、表現して創造すること、これらは人類の基本的な素質と能力の一つの反映である。

音楽科は人文教科の一つの重要な領域であり、情操教育を実施する主要な方法の一つであって、基礎教育段階の必修科目である。

音楽課程の教育的価値は主に以下の4方面を体験することによって実現される。

1. 美的価値の体験

音楽教育は美を核心とすることで、主として人の感情の世界に影響する。音楽科の基本的価値はこのことによって音楽を聴くこと、音楽を表現すること、音楽を創造するなどの美的活動を通じて、生徒・児童に音楽の音響形式における美と豊かな感情を十分に体験させる。音楽表現における真善美の理想的な世界に引きつけ、陶醉させる。強烈な感情の共鳴を引き起こさせ、音楽芸術によって心を浄化し、情操を育成し、知性を啓発する。情と知の相互補完作用とその機能を有効に発揮することによって、生徒・児童に健康で高尚な審美的情趣と積極的で楽観的な生活の態度を育成する。生涯にわたって音楽や芸術、生活を愛好するための基礎を築く。

2. 創造性発展の価値

創造するということは、芸術および社会全体の歴史的発展にとって原動力であり、芸術教育の機能と価値の重要な具現である。音楽創造は、その強烈で明確な独特の特徴によって魅力に満ちている。音楽授業において、生き生きして活発な音楽鑑賞や表現、創造的活動は、生徒・児童が表現しようとする欲求と創造の興奮を刺激することができる。主体的な参加を通して、生徒・児童の個性と創造の才能を展開させ、生徒・児童に想像力と創造的な思考を十分に発揮させる。

3. 社会交流の価値

音楽活動は、多くの場合、グループによって行われる。例えば、斉唱、斉奏、合唱、合奏、重唱、重奏、また歌と踊りの上演など、相互的なグループによる音楽活動は、同時に人と人とが交流するきずとなる。それは生徒・児童同士のグループ意識と相互尊重の協同の精神を身につけることに役立つ。音楽教育の成功は、学校の教室の中にとどまらず、大

きな社会環境に及ぶ。社会生活における音楽への関心、学年とクラス、学校と社会の音楽活動に対する積極的な参加、グループ意識、協同の精神と実践の能力について、生徒・児童に鍛練を課し、発達させる。

4. 文化伝承の価値

音楽は、人類が伝承してきた文化の重要な構成部分であり、人類の貴重な文化遺産であり、知性の結晶である。生徒・児童は中国民族の音楽を学ぶことを通して、祖国の音楽文化を理解し、心から愛好する。中国民族の音楽は、強大な凝集力となって伝播し、生徒・児童の愛国主義の気持ちを育成することに役立つ。生徒・児童は、世界の国々と諸民族の音楽文化を学ぶことによって、審美的視野を広げ、世界諸民族の豊かな音楽文化の特性と多様性に接し、異文化を理解し、それらを尊重し、心から愛好するようになる。

二 基本的な理念

1. 音楽の審美を核心とする

音楽の審美を核心とする基本的な理念は、音楽教育の全過程に貫かれるべきである。音楽は無意識のうちに感化する中で、生徒・児童にすばらしい情操と健全な人格を育成する。音楽の基礎知識と基本的技能の学習においては、音楽芸術の美的体験を有機的に浸透させるべきである。音楽教育では、教師と生徒・児童が共に音楽の美的過程を体験して、発見し、創造し、表現し、享受するべきである。授業の中で、音楽の感情を体験することを強調し、音楽芸術の美的表現の特徴に基づいて、音楽の形式と感情の内包を全体的に把握し、表現における音楽要素の作用を理解するよう、生徒・児童を導いていく。

2. 興味・愛好が原動力である

興味は、音楽を学ぶための基本的な動力である。興味は、生徒・児童が音楽と密接な連携を保ち、音楽を享受し、音楽によって人生を美化する前提である。音楽科は音楽芸術に特有な魅力を十分に発揮するべきである。異なった教育段階における生徒・児童の心身発展の法則と美的心理の特徴によって、多彩な教育内容と生き生きして活発な教育方法を用いて、生徒・児童の学習に対する興味を刺激し、育成する。教育内容は生徒・児童の生活経験と相互に関連することを重視するべきであり、音楽科と社会生活との連携が強化されるべきである。

3. 全ての生徒・児童を対象とする

義務教育段階の音楽科の任務は、音楽の専門的人材を育成することではなく、全ての生徒・児童に向かうべきである。全ての生徒・児童に対して音楽の潜在エネルギーを開発させ、その中で利益を受けさせることである。音楽科のすべての教育活動は、生徒・児童を主体とするべきである。音楽の感受と参加活動を重視して、教師と生徒・児童は協働するべきである。

4. 個性発達の重視

すべての生徒・児童は、自ら独特なやり方で音楽を学ぶ権利を有している。音楽の楽しみを享受し、各種の音楽活動に参加し、個人の感情と知恵を表現する。個々の個性に応じて適切な教育を行い、生徒・児童全体の普遍的な参加・発達を有機的に結び付けて、生き生きとして活発、柔軟で敏捷、多種多様な教育方法の開発を通して、生徒・児童のために個性の可能性と思考の拡大と発展を供する。

5. 音楽実践の重視

音楽科の教授過程は、音楽芸術の実践過程である。そのため、音楽教育の全領域において、生徒・児童が芸術実践することを重視するべきである。生徒・児童を積極的に導いて、各種の音楽活動に参加させる。このことが生徒・児童が音楽に分け入り、音楽の美的体験を得る基本的な方法である。音楽芸術の実践を通して、生徒・児童は音楽を表現する自信心を強め、よい協同意識と集団精神を育成する。

6. 音楽の創造的活動の奨励

中・小学校の音楽課程における音楽創造について、その目的は音楽を通して、生徒・児童の形象思考を豊かにし、生徒・児童に潜在する創造性を開発することにある。教育の過程の中では、生き生きとして興味深い創造的な活動内容や形式と環境を設定するべきである。生徒・児童の想像力を発揮させて、生徒・児童の創造意識を強める。創造的音楽活動の評価に対しては、創造的な活動の過程を主眼とするべきである。

7. 教科間総合の提唱

音楽教育の総合は異なる領域間の総合、例えば音楽と踊り、演劇、映画とテレビ、美術など姉妹の芸術の総合、及び音楽と芸術以外の教科の総合を意味している。実践においては、総合を教育の大筋とするべきであり、具体的な音楽の素材を通して、他の芸術分野と他教科の連携を上げるべきである。

8. 民族音楽の発揚

中国各民族の優れた伝統音楽を音楽科の重要な教

育内容とする。民族音楽を学ぶことを通して、生徒・児童に祖国の音楽文化を理解させ、心から愛好するようにさせる。民族の意識と愛国主義の情操を強化する。時代の発展と社会生活の変遷に沿って、近現代と現代中国における社会生活の中での民族音楽の優れた作品の存在を反映するよう、音楽科の教育の中に組み入れるべきである。

9. 多元的文化の理解

世界の平和と発展は、異なる民族文化の理解と尊重に依拠している。民族音楽の発揚を強調するとともに、また、広い視野で、世界の他の国家と民族の音楽文化を理解し、尊重する。音楽教育を通して、生徒・児童の平等で多元的な文化の価値観を確立させる。私達が人類すべての文明上の優れた成果を共に享受することに役立てる。

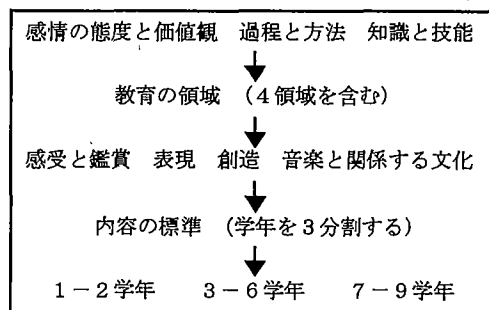
10. 評価構造の改善

素質教育の目標を具現するという前提の下に、音楽の教育課程の価値と基本的な目標の実現を評価する出発点として、総合的な評価構想を作り上げる。評価は生徒・児童、教師と課程の3段階を含むべきである。形式は自己評価、相互評価、他己評価等、多種類存在する。評価指標は音楽の不同的教育領域を内包することだけでなく、生徒・児童の音楽に対する興味、愛好、感情に対する反応や、参加することへの関心が含まれるべきである。教師は生徒・児童に音楽に入る過程と方法の有効な多い方面を導く。身体表現の学習過程の中で、評価を利用して、生徒・児童の発達を促進し、教師の教育のレベルを高めて、教育管理の作用を発展することである。身体表現の学習は活発で生き生きとした雰囲気の中で授業を行う。

三 課程標準の設計の構想

『標準』の主力を方面に分け、領域に分け、学年を分けるように表現した。課程の目標から内容の標準までの外から過程が溶けることに表す。

課程の目標（3つ方面で体现している）



第二部分 課程の目標

一 総目標

音楽課程の目標の設置は、音楽課程価値の実現を根拠とすることである。教育とさまざまに生き生きとしている音楽の実践活動を通して、生徒・児童に音楽を愛好する情趣を育成して、音楽の感受能力と鑑賞能力、表現能力と創造能力を発展する。音楽文化の素養を高めて、感情豊かにして体験して、高尚な情操を育成する。上述の課程目標の中には、以下の3方面で述べることを含む。

(一) 感情の態度と価値観

- 1 感情を豊かにして体験して、生活に関して積極的に楽観的な態度を育成する。

音楽を通して、生徒・児童の感情世界に感化を与え、薰陶を受けさせて、無意識の中に感化する。親しい人々、他の人、人類、また、すべてのすばらしい事象に対して深い愛情を作り上げる。一歩進んで、生活に関して積極的に楽観的な態度を育成し、すばらしい未来に対するあこがれを育成し、追求する。

- 2 音楽の興味を育成して、生涯学習の願望を確立する。

各種の有効な方法を通して、音楽に分け入るよう生徒・児童を導く。自ら音楽活動に参加する過程において、音楽を愛好し、音楽の基本知識と初歩的な技能を把握して、音楽を鑑賞する習慣を徐々に育成して、生涯にわたって音楽を愛好する基礎を確立する。

- 3 音楽の美的能力を高めて、高尚な情操を育成する。

音楽作品の情趣、格調、思想、人文内包の感受と理解を通して、音楽の鑑賞と評価能力を培う。健康的で向上的な美的情趣を育て、生徒・児童に真善美の音楽芸術の世界の中で高尚な情操を育成する。

- 4 愛国主義と集団主義の精神を涵養する。

音楽作品における祖国の山河や人民、歴史、文化と社会の発展に対しての賛歌と賛美を通して、生徒・児童の愛国主義の心情を育成する。音楽の実践活動の中で、生徒・児童の良好な行動の習慣、寛容な理解、相互の尊重、共同意識と集団主義の精神を育成する。

- 5 芸術を尊重して、多元的な文化を理解する。

芸術家の創造や芸術作品を尊重して、良好な芸術の習慣を養う。異なる国家、民族、時代の作品を

学ぶことを通じて、音楽の中の民族風格と感情を知覚し、不同の民族音楽の伝統を理解して、中華民族と世界のその他の民族の音楽を心から愛する。

(二) 過程と方法

1 体験

作品全体を十分に聴いて、生徒・児童に音楽の美的過程における喜びを感受し体験させる。生徒・児童にこのような体験を積極的させることによって想像を十分に展開させ、音楽の体験の中で独自の見解を保持するよう励ます。

2 模倣

中、低学年児童の心身の特徴をふまえて、音楽の基本的な要素から始め、模倣を通して感性の経験を蓄積し、音楽表現と創造力の育成のための基礎を築く。

3 探索

開放的で興味深い音楽学習の環境を提供することによって、音楽の好奇心と探索心を刺激し、即興的で自由な展開を主とする探索・創造活動を行って生徒・児童を指導する。このようにして生徒・児童の創造的思考と探索活動の発展過程を重視させる。

4 共同

音楽芸術における集団的な上演形式と実践の過程を充分に利用して、生徒・児童に共同意識とグループ内の協調能力を育成する。

5 総合

その他の芸術表現形式を音楽の教育の中で効果的に導入し、音楽を大筋とする総合芸術の実践を通して、生徒・児童に音楽の意味及び人類にとっての芸術活動の価値を直感的に理解することを支援する。

(三) 知識と技能

1 音楽の基礎知識

音楽の基本的な表現要素（強弱、速度、音色、リズム、メロディー、和声など）と音楽構造（楽曲の表現形式）および音楽のジャンルなどの基礎知識を学んで理解し、音楽の美的形式能力の発達を促進する。

2 音楽の基本的な技能

生徒・児童が自信を持って、自然で表情ある歌唱をしていること。歌唱、演奏の初歩的な技能を学習していること。音楽を聴くことと知覚することに加えて、楽譜を読むこと。音楽の表現活動において楽譜を運用すること。

3 音楽の創作と歴史の背景

自由で、即興的な作品の創造によって自分の感情を表現し、音楽創作の定石を理解し、技能を学ぶ。作曲家の生涯と作品の題材、ジャンル、風格などを理解することによって、国内外の音楽発展に関する略史を理解し、異なる時代と民族の音楽を識別して、中国民族音楽の認識と理解を深める。

4 音楽と関連する文化

音楽と姉妹関係にある芸術との連携を認識し、各芸術分野個別の表現様式と芸術形式の特徴を感じて、音楽と芸術以外の教科の関連を理解する。自分の生活経験と学んだ知識によって、音楽の社会的機能を認識し、音楽と社会生活の関係を理解する。

二 学年の目標

上述の課程の目標を3段階に分けて、義務教育段階の9学年の中で具現している。各学年段階の主要な目標は以下の通りである。

（1）1～2学年

- ・生徒・児童に、音楽に対しての興味を刺激して育成する。
- ・音楽の知覚能力を開発して、音楽の美感を体験する。
- ・自然に、表情豊かに歌い、即興的な創造活動と表現に参加することを愛好する。
- ・楽観的な態度と友愛の精神を育成する。

（2）3～6学年

- 生徒・児童の生活範囲と認知領域をさらに広げて、感銘を体験し、創造を探索して活動能力を強める。音楽に関して全体的に感じ取るよう生徒・児童を導くことに配慮すべきである。教材のジャンルと様式を多様にして、楽器の演奏と創作活動の比重を増し、生き生きして活発な教育方法と芸術の魅力で生徒・児童を引きつける。
- ・生徒・児童の音楽に対する興味を保持して、音楽活動への参加を愛好させる。
 - ・音楽の感受と鑑賞能力を育成する
 - ・音楽の表現能力を育成する
 - ・芸術の想像と創造力を育成する
 - ・楽観的な態度と友愛の精神を育成する。

（3）7～9学年

生徒は、生理的にも心理的にも、日ごとに参加意識と交流願望が強まり、情報獲得によって知識は増加し、学習上の初歩的な経験を形成している。

感情表現は1～6学年の生徒・児童より明らかな変化がある。多種の形式の芸術実践活動を経るべきであり、音楽表現の基本的な技能を強化し、高める。音楽鑑賞の範囲を拡大し、また、意識的に音楽文化の内包について教育に含めること。7～9学年の生徒・は、変声期最中であり、歌唱量を適切に減らして、声に注意し、保護する。

- ・生徒の音楽に対する興味を増進して、音楽活動への参加を愛好させる。
- ・音楽の感受と鑑賞の評価力を高め、よい音楽を鑑賞する習慣を育成する。
- ・音楽の表現力を発展させる。
- ・芸術の想像と創造力を豊かにして高める。
- ・生活情趣を豊かにし、楽観的な態度を育成して、グループ意識を増進し、共同と協調の能力を鍛える。

第三部分 内容標準

領域の1：感受と鑑賞

音楽の表現要素
音楽の情趣と感情
音楽のジャンルと形式
音楽の風格と楽派

領域の2：表現

歌唱
演奏
総合的な芸術表現
読譜

領域の3：創造

音・音楽を探索する
即興で創造する
実践的に創作する

領域の4：音楽と関連する文化

音楽と社会生活
音楽と姉妹芸術
音楽と芸術以外の他の教科

学年別内容の標準

一 感受と鑑賞

感受と鑑賞は重要な音楽学習領域である。音楽学習活動全体の基礎であり、生徒・児童の音楽の美的能力を育成するために効果的な道である。よい音楽感受能力と鑑賞能力を形成することは、感情を豊かにし、文化の素養を高め、心身の健康を増進するために重要な意義を持っている。教育においては、生

徒・児童に音楽鑑賞に対する興味を刺激するべきであり、音楽を聞くよい習慣を育成して、音楽の鑑賞経験を徐々に蓄積していく。多種の形式を取り上げ、生徒・児童を音楽体験に積極的に参加するよう指導する。生徒・児童が、音楽を聴くことに対して独自の感受・見解を持つことができるようを励まし、生徒・児童に音楽と人生の密接な関係を作り上げるよう支援し生涯音楽を享受できるよう学習の基礎を築く。

【内容】音楽の表現要素

【標準】1～2 学年

- ・自然界と生活における各種の音(声)を感じ取る。自分の音(声)あるいは打楽器を用いて模倣する。歌声を聞き、それにふさわしい身体反応をすることができる。
- ・子どもの声、女声と男声を聞いて弁別することができる。
- ・楽器の音を感じ取る。打楽器の音色を聞いて弁別する。強弱、長短が異なる音を打楽器を用いて演奏できる。
- ・音楽の強弱、速度の変化を感じて言い表す。

【標準】3～6 学年

- ・自然界と生活における各種の音響に対して好奇心を持ち、興味を感じて、自分の音(声)あるいは楽器を用いて模倣する。既知の歌曲や曲に従って歌を歌ったり、あるいは身体反応を示すことができる。
- ・異なる類型の女声と男声を聞いて弁別することができる。有名な中国民族の楽器と西洋楽器を知り、それらの音色を聞いて弁別することができる。
- ・音楽のリズムとメロディーの流れを知覚する中で、拍子の不同を弁別し、メロディーを聞いて、その高低、速度、強弱を弁別することができる。
- ・音楽のテーマ、フレーズと段落の変化を知覚することができ、それらに反応して相応しい身体表現や線、色を運用することができる。

【標準】7～9 学年

- ・各種の音響を聴いて興味と願望を持って探索する、異なる物体を用いて、異なる音(声)を探索することができる。
- ・歌声、楽器音を体験し、理解を深める。人の声・有名な楽器の分類と音色の特徴を説明することができる。
- ・強弱、速度、音色、リズム、メロディー、和声など音楽の表現要素を知覚し、音楽の流れにおける

表現作用を理解して評価する。

- ・音楽構造を知覚して、フレーズの対比と変化を簡単に述べることができる。

【内容】音楽の情趣と感情

【標準】1～2 学年

- ・異なる情趣の音楽を体験し、それにふさわしい身体反応を自然な表情で表すことができる。
- ・異なる情趣の音楽を体験し、共通点と相違点について述べる。

【標準】3～6 学年

- ・異なる情趣の音楽を聞いて弁別し、言語を用いて簡単な陳述を行う。
- ・音楽の情趣の変化を体験し、簡単に述べるができる。

【標準】7～9 学年

- ・音楽に表現された各種の感情を自発的に体験し、発想標語を用いて述べるができる。
- ・音楽感情の展開と変化を知覚し、多種の形式を用いて簡単に述べるができる。

【内容】音楽のジャンルと形式

【標準】1～2 学年

- ・わらべ歌、童謡、行進曲とダンス音楽を聞いて、模唱して、打楽器を用いて反応する。行進曲、ダンス音楽に従って歩いたり踊ったりすることができる。
- ・独唱、独奏、斉唱、斉奏を区別することができる。

【標準】3～6 学年

- ・子どものための歌曲、賛歌、叙事歌曲、芸術歌曲、ポピュラー歌など各種のジャンルの歌曲を聴いて分類し、歌曲と一緒に小さな声で歌ったり、黙ったりすることができる。
- ・異なるジャンルの器楽曲を聞いて分類し、身体の動きや打楽器を用いて、音楽に反応を示すことができる。
- ・合唱・斉唱、斉奏・合奏を区別することができる。
- ・小曲の音楽ジャンルと形式を区別でき、音楽のテーマから曲名を述べるができる。各学年2～4 曲。

【標準】7～9 学年

- ・大合唱、組歌、室内楽、協奏曲、交響曲、歌劇、舞踊劇の音楽や他のジャンルの歌曲と楽曲を聴いて、各種の形式を運用して反応を示す。
- ・異なるジャンルの音楽を聴いて形式を区別し、音楽のテーマから曲名述べるができる。各学年2～4 曲。

- ・鑑賞曲について、そのジャンルと形式を、音楽の表現機能に結びつけて簡単に評価・分析する。

【内容】音楽の風格と流派

【標準】1～2 学年

- ・異なる国家、地域、民族のわらべ歌、童謡と小器楽曲や楽曲の1部分を聴いて、それぞれの風格を感じ取る。

【標準】3～6 学年

- ・中国民族・民俗音楽を聴いて、代表的な地域民歌、民俗歌舞、民俗の器楽曲と伝統的な演劇、曲芸[語り物]の音楽などを認識し、それぞれの風格を理解する。
- ・世界各国の民族・民俗音楽を聴いて、国家と民族音楽について異なる風格を感じ取る。

【標準】7～9 学年

- ・中国の民族・民俗音楽を聴いて、その主要な種類、節回し、風格、流派と代表的な人物を認識する。
- ・世界各国の民族・民俗音楽を聞いて、その風格の特徴について簡単な論評を行うことができる。
- ・世界各国の優れた音楽作品を聴いて、それぞれの楽派の代表的な人物について理解する。

二 表現

表現は実践的音楽学習の領域である。音楽を学ぶための基礎的な内容であり、生徒・児童の音楽表現能力と美的能力を育成する重要な方法である。教育の中で生徒・児童が自信を持って歌うこと、演奏の能力と総合的な芸術表現能力を育成することを留意するべきである。生徒・児童の潜在する演奏能力と潜在する創造能力を発達させる。生徒・児童は音楽の形式を用いて、個人の感情を他人の感情と結びつけて表現させる。音楽の実践活動の中で生徒・児童に喜びを享受させ、感情を薰陶する。

【内容】歌唱

【標準】1～2 学年

各種の歌唱活動に参加する。

- ・歌唱時の正しい姿勢について知る。
- ・指揮と前奏に対して反応を示すことができる。
- ・自然の音(声)を使うことができ、独唱や斉唱についてリズムとメロディーを用いて表情ゆたかに参加する。
- ・異なる強弱、テンポを用いて、歌曲の情緒を表現することができる。

各学年は4～6曲を暗唱して歌うことができる。

【標準】3～6 学年

- ・喜んでさまざまな種類の歌唱活動に参加して歌う。
- ・歌唱時の正しい姿勢と呼吸の方法について知り、それらを歌唱の中で用いる。
- ・指揮と前奏に対して適切に反応する。
- ・自然の音(声)を使うことができ、独唱や斉唱についてリズムとメロディーを用いて表情ゆたかに参加する。
- ・自分自身の歌唱と他の人の歌唱に対して評価を行うことができる。

各学年は4～6曲を暗唱して歌うことができる。

【標準】7～9 学年

- ・さまざまな歌唱活動に自発的に参加して良好な歌唱の習慣を育成する。
- ・自信を持って表情ゆたかに歌唱することができる。
- ・斉唱、輪唱、合唱に積極的に参加して、指揮者の指示に対して正しく反応する。
- ・変声期の声の保護に関して知識と方法を理解する。
- ・歌曲の特徴と風格について簡単な分析でき、歌曲の情緒と心情を表現することができる。自分自身、他の人、集団の歌に対して評価を行うことができる。
- ・各学年は3～5曲を暗唱して歌うことができる。

【内容】演奏

【標準】1～2 学年

- ・打楽器を学ぶ。
- ・打楽器あるいはその他の音源を用いて、歌曲の伴奏・合奏する。

【標準】3～6 学年

- ・各種の演奏活動に参加する意欲を育成する。
- ・楽器の演奏方法を学んで、歌曲や器楽曲を伴奏する。
- ・適切な演奏方法で曲の情緒を表現し、自分自身、他の人の演奏に対して評価を行う。
- ・各学年は2～3曲を演奏することができる。

【標準】7～9 学年

- ・各種の演奏活動に自発的に参加し、良好な演奏習慣を育成する。
- ・適切な演奏方法で、曲の情緒を表現することができる。
- ・自分自身や他の人あるいは集団の演奏に対して評価を行う。
- ・各学年は2～3曲を演奏することができる。

【内容】総合的な芸術表現

【標準】1～2 学年

- ・総合的な芸術表現活動に参加する。

- ・歌曲や器楽曲を組み合わせ、身体動きをする。
- ・リズムによる身体動き、集団舞踏、音楽遊戯、歌唱の中で他の人と協同することができる。

【標準】3～6 学年

- ・総合的な芸術活動を自発的に参加し、その楽しみを享受する。
- ・ストーリーのある音楽の中で一つの役を持つ。
- ・自分や他の人の表現に対して評価を行う。

【標準】7～9 学年

- ・自信を持って、総合的な芸術活動に参加することができる。
- ・歌曲や器楽曲を簡単な身体動きを結び付けて、情景を創る。
- ・簡単な歌劇、伝統演劇、曲芸を学んで、自分や他の人の上演に対して評価を行う。

【内容】読譜

【標準】1～2 学年

- ・簡単なリズムの記号が分かる。
- ・音(声)、言語、身体動きを用いて、簡単なリズムを表現する。
- ・簡単な楽譜を模倣することができる。

【標準】3～6 学年

- ・楽譜を用いて学んだ歌曲を歌う。
- ・歌曲の中にある音名、音符、休符について知る。
- ・簡単な楽譜を読むことができる。

【標準】7～9 学年

- ・楽譜を用いてよく知っている歌曲、器楽曲を歌う。
- ・ピアノあるいは録音の歌と一緒に、楽譜を視唱する。
- ・読譜能力を高める。

三 創作

創作は、生徒・児童の想像力と潜在する思考を発揮する音楽学習領域である。それは生徒・児童が音楽の創作経験を蓄積し、創造的思考能力を発掘する過程であり、手段である。それは、実践力をともなった革新的人材を育成するために非常に重要な意義を持っている。

音楽の創作では2種類の学習内容を含んでいる：

1. 音楽と関係する生徒・児童の即興的・創造的な潜在能力を発掘する。
2. 音楽の素材を用いて、創作する。
これらの中で第2の項の内容は、作曲と関係している。しかし、専門的な作曲学習と異なるべきである。

【内容】音・音楽を探索する

【標準】1～2 学年

- ・人声(音)と楽器音を用いて、自然界あるいは生活の中の音を模倣することができる。
- ・打楽器や様々な音源を探求し、音の強弱、音色、長さと高さを探索する。

【標準】3～6 学年

- ・簡易な楽器を自分で制作することができる。
- ・人声(音)、楽器音及び各種の音源を用いて、自然界あるいは生活の中の音を模倣することができる。

【標準】7～9 学年

- ・人声(音)、楽器音および各種の音源を用いて、情景を表現する。
- ・自分の音や声、また他人の音や声の探索活動に対して評価することができる。

【内容】即興で創造する

【標準】1～2 学年

- ・慣用句、短い句、詩歌あるいは歌詞を異なるリズム、速度、強弱などで表現する。
- ・教室にある楽器や他の音源を使って、音楽に合わせて音楽の物語やゲームを即興的に創作する。

【標準】3～6 学年

- ・歌曲の情緒と一致する韻律あるいは踊りを即興的にアレンジし、上演に参加する。
- ・各種の音源と異なる音楽の表現形式を用いて、音楽の物語と音楽の遊戯を即興的に創作し、それを基にした上演に参加する。

【標準】7～9 学年

- ・生活上の慣用句あるいは詩と詞の短い句を即興に歌うことができる。
- ・歌曲、楽曲の内容や情緒によって、音楽的な情景を即興的に作ることができる。

【内容】実践的に創作する

【標準】1～2 学年

- ・線、色、図形を運用して、音(声)あるいは音楽を記録する。
- ・人の声(音)、楽器の音や各種の音源を用いて、1～2小節のリズムあるいはメロディーを創作する。

【標準】3～6 学年

- ・2～4小節のリズムを創作することができる。
- ・2～4小節のメロディーを創作することができる。
- ・コンピューターを使って、音楽を創ることを試みる。

【標準】7～9 学年

- ・1人であるいは他人と協力して、8小節程度の短

い曲を創作することができる。

- ・ 歌曲に合わせて前奏あるいは間奏を選び、編集することができる。
- ・ コンピューターを使って、音楽を作ることを試みる。

四 音楽と関係する文化

音楽と関係する文化は、音楽科における人文教科の属性の集中的な体现であり、生徒・児童の文化素養を直接的に増進する学習領域である。それは生徒・児童に対して音楽文化の視野を拡大することに役立ち、音楽的体験と感受を促進し、音楽鑑賞・表現・創造及び芸術の美的能力を高める。音楽と関係する文化は、いくつかの面で独自の教育内容がある。音楽活動において多くの場合は鑑賞・表現・創造を含んでいる。教育目標を実現するためには、具体的な音楽の作品および生き生きとした音楽の実践活動を通して完成するべきである。

【内容】音楽と社会生活

【標準】1～2 学年

- ・ 生活中の音楽を感受し、喜んで他人と共に音楽活動に参加することができる。
- ・ 放送、テレビ、テープ、CD などのメディアを通して音楽を鑑賞することができる。
- ・ 地域や郷土の音楽活動に参加することができる。

【標準】3～6 学年

- ・ 日常生活の中にある音楽に関心を持つ。
- ・ 喜んで放送、テレビ、テープ、CD などのメディアの中から音楽資料を収集し、それらをよく聞く。
- ・ 地域や郷土の音楽活動に主体的に参加し、音楽について他人とコミュニケーションを行うことができる。
- ・ 喜んでコンサートに参加したり、現地の民俗音楽の上演を鑑賞する。

【標準】7～9 学年

- ・ 音楽に関心を持つ習慣を育成し、社会生活の中でその習慣を具体的に生かし、音楽の役割について説明できる。
- ・ 喜んでメディアの音楽を聞き、音楽の情報を理解・蓄積し、収集した音楽の資料を友だちと交換して、音楽について感じたことを交流する。
- ・ コン서트への出席および地域の音楽活動に参加する中で、音楽家や民間芸術家の活動を観察・理解することができ、自分で評価する。

【内容】音楽と姉妹芸術

【標準】1～2 学年

- ・ 簡単な身体の動きを用いて、音楽のリズムを組み合わせる。
- ・ 簡明な動作を用いて、音楽の情緒を表現する。
- ・ 色あるいは線を用いて、音楽との共通点や相違点を表現する。

【標準】3～6 学年

- ・ 芝居、踊りなどの芸術表現形式に接して理解し、これらの表現形式における音楽の作用を知る。
- ・ 既知の映像作品と関連づけて、作品における音楽の作用について簡単な説明をする。

【標準】7～9 学年

- ・ 芸術作品によって、聴覚芸術と視覚芸術における表現素材（方法）や特徴的な表現についての共通点と相違点を比較する。
- ・ 既知の映像作品と関連づけて、音楽の背景やテーマ音楽を認識し、それについて述べる。
- ・ 総合芸術の表現手段を用いて、クラスにおける芸術活動について提案し、計画する。

【内容】音楽と芸術以外の他の教科

【標準】1～2 学年

- ・ 音(声)と日常生活の現象及び自然現象との関係を理解することができる。
- ・ 簡単な韻律、動作を用いて、異なる音楽のリズム、拍子、情緒を組み合わせる。

【標準】3～6 学年

- ・ 適切なバック・ミュージックを選択して、童謡や童話物語、あるいは詩の朗読ために音響効果を加える。
- ・ 歴史的に異なる時代、異なる地域や国家の代表的な童謡について知る。

【標準】7～9 学年

- ・ 情緒に対する音楽の影響について知り、適切な音楽を用いて、自分の気分の調節を行う。
- ・ 音(声)芸術と言語芸術の関係を理解して、音楽を適切に選択して、詩と詞、散文の情感を引き立たせる。
- ・ 社会科学と自然科学の知識を関連させて、音楽作品の理解を深め、中国と世界のその他の国の代表的な歌曲や楽曲及び風土と人情について知る。

第四部分 実施・提案

一 教育の提案

『標準』の実施を保証するために、教師は課程の基本的な理念を深く理解するべきである。この考え方

を広めて、教育方法を開拓する。音楽を基として、人の育成を基として、課程の価値と課程の目標を全面的に実現する。

(一)教育の中で注意すべき問題

1. 聴覚芸術の感知の規則に従って、音楽教科の特徴を際立たせる。

- 音楽は聴覚の芸術であり、聴覚の体験は、音楽を学ぶ基礎である。生徒・児童の音楽聴覚の発展は音楽教育における全ての活動に貫くべきである。
- 教師は、生徒・児童が音楽を愛好するように指導し、音楽の理解を深めて、作品における音楽の美を十分に掘り起こす。教師自身は音楽に対して感受性を用いて、生徒・児童が感情に共感できるように刺激する。
- 教師は音楽教育の技能を絶えまなく高めて、自分の歌声、楽器音、言語や仕草を用いて、生徒・児童に音楽の美を伝達する。
- 教師は生き生きして活発な授業を行い、生徒・児童は芸術的な雰囲気において美的感受を得、美を通して人に影響を与え、美を用いて人を教育する。

音楽の審美を核心とすることは、中・小学校の音楽教育における最も基本的な理念である。音楽の審美を核心とすることは、それぞれの異なる教育領域の中で浸透すべきである。音楽の感受・鑑賞、表現、創造及び音楽と関係する文化の学習を通して、生徒・児童の美的感受を育成し、美的感情を豊かにして、美的想像を発展させ、美的理解を深め、生徒・児童の音楽美的能力を有効に高める。

2. 音楽教育の各領域の間の有機的な関連に注意する。

『標準』に設定した4つ音楽教育の領域は、全体として相互関連し相互浸透する。教師は、音楽教育の各領域内容についての必要性と相互の関連を全面的に理解・把握すべきであり、教育の中においてそれを有機的な全体に融合させ、生徒・児童の音楽の素質を全面的に高める。

例えば「感受と鑑賞」の中には「音楽と関係する文化」を含む。音楽表現の過程もまた同時に音楽感受と涵養、創造力展開の過程である。音楽感受と鑑賞能力の向上は、音楽の表現を豊かにすることができる。同じ論理で「音楽と関係する文化」は、音楽鑑賞、表現と創造活動を行う場合に限り、理解・体现することができる。

3. 全ての生徒・児童に対して、一人ひとりに応じた適切な教育を行うよう注意する。

学校の授業は学校音楽教育における主要な部分として機能する。学校と教師は全ての生徒・児童のために十分な時間、空間と条件を提供する。

生徒・児童の間に音楽能力の相違が客観的に存在しても、教師は全ての生徒・児童に対して普遍的な関心と激励を与え、彼らに自信を持たせて各種の音楽活動に参加させる。音楽の好きな生徒・児童に対しては相応の指導を与えるべきであり、彼らには集団の音楽学習に関心を向けるよう激励する。

4. 平等で相互的な教師と生徒・児童の関係を作り上げる。

音楽教育活動は、過程と結果の両方が重要である。教師は教育の組織者と指導者として、生徒・児童と音楽をつなぐ架け橋である。教育の過程における教師は生徒・児童と民主的で平等な交流を行い、相互的な関係を作り上げる。

教育の形式は多種多様になるべきである。それぞれの教育内容と教育目標に基づいて、それらに相応しい教育の組織形式を採用し、美感を満たす音楽の教育環境をつくる。音楽教育における生徒・児童の主体的な地位を際立たせて、生徒・児童が各種の音楽活動に参加できるよう、教師と生徒・児童が交流することは効果がある。

5. 現代教育の技術手段を運用する。

情報技術に代表される現代の教育技術は、音楽教育の幅を大きく拡大した。教育手段と教育資源を豊富にした。これは音楽教育において実際的な価値がある。教師は現代の情報技術を掌握すべきである。視覚と聴覚との結合、音(声)と図像の一体化、大きな情報量、幅広い資源などの長所を利用して、教育の中で勤しむ。学校や家庭と地域において、生徒・児童にコンピューターのネットワークを運用させ、潜在する巨大な教育力を十分に発揮させる。教師は生徒・児童が現代の情報技術を利用して音楽を学ぶよう指導する。

教師は、生徒・児童が映画やテレビ、放送、ネットワークの上で音楽を学ぶことができるよう指導を強化すべきである。

6. 地域の事情に応じて別の方法を採用し、『標準』を実施する。

中国は土地が広く、人口が多い多民族国家である。各地域や各民族、都市と農村の間は相違が存在する。

各学校と教師は、自分たちの地域、自民族と自校の具体的な状況を考慮し、当該地域の課程資源を充分に利用して、学校内外に良好な音楽環境をつくる。教育内容を、地域文化と民族文化の特色で潤し、地域に応じて、別の方法を採用し、教育領域に関する内容標準の弾力的な尺度を把握する。

（二）教育内容に関する提示

1. 感受と鑑賞

感受と鑑賞は音楽教育における重要な内容であり、生徒・児童の音楽の感受能力と美的能力に対して役に立つ。この部分の教育内容は、音楽を基本とすることに注意すべきである。鑑賞は音響の視点を主とする。教師の解説と提示は簡明で、生き生きとし、啓発性を持つことが必要である。教師は多種の形式を採用し、生徒・児童の音楽体験を刺激し、連想と想像を誘発すべきである。教師は生徒・児童独自の感受と見解を尊重して、生徒・児童美的体験を発表するよう励ます。生徒・児童の音楽鑑賞の興味を刺激し、音楽を鑑賞する良好な習慣を徐々に身につけて、音楽を感受・鑑賞する経験を蓄積する。

2. 歌唱

歌唱は中・小学校音楽教育における基本的な内容であり、生徒・児童が好んで参加しやすい表現形式である。歌唱技能の練習は、実践活動と結び付けて行うべきである。歌曲の内容と相応しい教育環境をつくって、生徒・児童の豊かな感情を刺激して歌う。感情を声にして、声と感情との融合をはかる。変声期の声の保護に留意して、叫ぶように歌うことを避ける。

合唱教育を重視・強化して、生徒・児童に多声部の豊かな音楽表現力を感受させ、他人との歌唱の経験をできるだけ早く作り上げて、グループの意識と調和・合同の能力を育成する。合唱教育は、輪唱からだんだん多声部合唱に移行する。

唱歌教育はすべての生徒・児童が積極的に参加できるように留意して、歌唱についての自信を育成し、彼らに歌唱表現における美的熏陶を受けさせる。

3. 演奏

器楽の演奏は生徒・児童が音楽興味を学ぶことを刺激し、音楽の理解・表現と創造力を高めることに對して、非常に重要な作用を持っている。器楽教育は唱歌、鑑賞、創造など教育内容に密接に結合すべきである。例えば、楽器を用いて、歌の伴奏をし、鑑賞曲のテーマの旋律を演奏する。各種の演奏形式

を取り入れて、主として器楽合奏を学び、生徒・児童に実際的な条件と各自の興味・愛好によって、参加する中で生徒・児童の特質を發展させる。

授業用楽器は演奏と学習にとって容易いものとし、集団教育のために使う。吹奏楽器は必ず衛生的な標準に合わなければならない。正しく澄んだ音が求められる。地域によって、異なる方法を取る。自分たちの地域や民族における中・小学校の音楽授業に適する楽器を選ぶ。生徒・児童が楽器自分で楽器を扱うことができるよう励ます。

4. 読譜

楽譜は音楽を記す記号であり、音楽を学ぶ基本的な手段である。生徒・児童は基本な読譜能力を必要とする。それは音楽上演と音楽創造など教育活動にとって有効である。読譜は、歌唱、演奏、創造、鑑賞など教育内容と密接に結合して、生き生きとした音楽の基礎となる。生徒・児童の感性と認知の基礎として行う。生徒・児童のよく知っている歌曲や楽曲を通して楽譜を読む。また楽器を用いて楽譜を学ぶ。

数字譜と五線譜は中国における現行の2種の主要な読譜形式である。各地域や学校はそれぞれ適するものを選択する。五線譜の教育は移動音階法を採用することを提案する。

5. 創造

音楽は創造的な芸術である。音楽創造は、中・小学校音楽教育における即興的に、あるいは音楽の素材を用いて音楽を創造する活動である。音楽教育においては生徒・児童の創造性を發揮する機会がたくさんある。教師は創造力の育成を各教育の領域に貫くべきであり、生徒・児童を啓発して、創造的に芸術表現を行う。

二 評価の提案

音楽課程の評価は素質教育の精神を全面的に推進することを充分に體現しなければならない。『標準』の基本的な理念を貫徹し、評価の教育、激励、改善の機能に着眼する。科学的課程評価を通して、生徒・児童の發展することを有効に促進し、教師が向上するように激励し、教育管理を完備し、音楽課程の建設と發展を推進する。

（一）音楽課程評価の原則

1. 方向性の原則

- ・音楽課程の評価は、生徒・児童にとって、自分自身の進歩を了解することに有利すべき、音楽の潜

在能力を発見・発展し、自信を持つ、音楽の感知、表現などの能力の発展を促進する。

- ・教師にとって、自分の授業のレベルをまとめ・高めることに有利がある。
- ・学校の音楽教育を強化・改善することに有利がある。課程の発展を促進することに有利がある。

2. 科学性の原則

評価指標の確定と評価方法の選択は、音楽教科の特徴と音楽教育の客観規則を根拠として、中・小学校の音楽課程の性質と価値を体現していて、青少年の心身発展の特徴と音楽美的教育規則を符合すべきである。

3. 全体性の原則

生徒・児童、教師に対する評価また学校の音楽教育に対する評価は、全体から着目するべきで、課程目標の各方面と教育の各領域を含んでいるべきである。生徒・児童の評価に対して発展の視点から見て、段階の回顧と対比の中から、生徒・児童の進歩と発展を把握し、評価に激励・促進の作用を果たすことができる。

4. 可操作性の原則

評価の指標と方法は簡便で明確で、操作しやすいものを広めるべきである。音楽教育の特性によって、定性評価と定量評価とを結びつけ、また、形成性評価と終結性評価とを結びつけて、教育の全過程の中に評価を融合し、自己評価、相互評価、他己評価を有機的に結合し、生き生きして活発な評価状況を形成する。

(二) 評価の内容

1. 生徒・児童

生徒・児童の評価に関しては、感情の態度と価値観及び知識と技能の方面の指標に関心をもつべきである。また、学習過程と方法の有効性を考察すべきである。

例えば：

- ・音楽に対しての興味・愛好と情感反応。
- ・音楽の実践活動における参加態度、参加程度、合同の願望と調和の能力。
- ・音楽体験と模倣能力、表現能力。
- ・音楽の学習態度・アレンジ能力を探究する。
- ・音楽と関係する文化に対しての理解と美的情趣の形成など。

2. 教師

教師の評価に対して主に教育思想、業務の素養、教育の態度、教育方法と効果、教育の業績（課外の

音楽活動を含む）および教師と生徒・児童と交流の中で生徒・児童を愛護・尊重するか否かを内容とする。

3. 課程の管理と課程の発展

主として管理者と課程の評価に対して行う。学校の管理者は音楽教育機能の認識と重視の程度、学校の芸術の雰囲気、音楽授業の開講、音楽教師と音楽教育設備の配備、課外音楽活動の展開などに対して指導する。『標準』の実行情況と出現した問題に対して段階的な評価・分析を行って、総括して、絶えず調整して改善して、課程建設と発展を促進する。

(三) 評価の実施方法

1. 形成性評価と終結性評価と互いに結合する

音楽教育の実践過程は、評価の重要な1方面であり、十分な関心を向けるべきである。音楽授業においては常に行う。観察、談話、質問、討論、臨時に指定曲を歌唱（演奏）するなどの実践方法を採用することができる。

2. 定性評価と定量評価は互いに連携する。

音楽教育活動における、生徒・児童の音楽興味・愛好、情感反応、参加態度、交流合同、知識と技能を把握する状況などに関して、比較的な正確で、目に浮かぶような文書を用いて定性評価を行う。また必要性和実行可能性によって、量的評価を行う。どのような種類の方法を採用するにしても、科学性に注意すべきである。

3. 自己評価、相互評価、他己評価とを有機的に結合する

生徒・児童と教師の評価に対して自己評価の実施方法を採用することができる。主として叙述性評価と激励性評価を行う。音楽教育においては生徒・児童、個人の間に明らかな差異が存在する。そのために生徒・児童に対する評価の重点は、自己発展の縦方向の視点から評価を行う。

「クラスコンサート」は評価の民主性を十分に体現することができ、調和的で友好的な評価の雰囲気をつくる。クラスコンサートあるいは他の活動を通して、教師と生徒・児童の音楽作品、音楽の小さな評論（感想）、上演の写真、録音録画などを展示し、互いに交流・激励の目的を達成する。生き生きして活発な評価の1方法である。

生徒・児童と教師の自己評価、教師と生徒・児童の間と教師の間の相互評価、学校と上級（上司）の主管部門から教師に対しての評価、生徒・児童の両親から教師に対しての評価及び教師と生徒・児童の

両親から学校音楽教育と音楽課程に対しての評価は、全て重要な評価方法である。音楽教育を改善する情報は、多方面から得ることができるので、音楽教育を調整・改善して、音楽教育の質を高める。しかし評価活動は多すぎではない。評価の過程をできるだけ簡単にし、形式に流れることを防止する。

三 課程資源の開発と利用

1. 『標準』とそのために編纂した教材は、音楽課程の最も重要で基本的な資源である。

学校は教師を組織して、『標準』を真剣に学ぶべきで、国家教育部の審査を通したあるいは教育の主管部門の推薦した教材（生徒・児童使用の教科書、音響の教材と教師使用の参考書を含む）を選んで、『標準』と教材に根拠して、音楽教育を心をこめて、創造的に実施する。

2. 『基礎教育課程の改革綱要（試行）』の要請によって、国家、地域、学校の3級課程管理を実施し、国家の課程の他、地域と学校は、自主的に開発した課程も一定の割合を含めるべきである。地域と学校は当該地域の人文の地理的環境と民族文化の伝統を関係づけて、地域や民族、学校の特色を持つ音楽課程の資源を開発すべきである。

3. 音楽教育の施設は課程目標を実現するための保証である。学校は音楽専用の教室と専用の設備を配置すべきである。例えばピアノ、オルガン、アコーディオン、エレクトーン、録音と録画の器材、マルチメディアの教育設備と常用的な打楽器、民族楽器と西洋楽器など。

- ・学校の図書館と研究室には、音楽の書籍、雑誌、録音と録画の資料などを購入して、教師が授業の準備、研修、研究をするように使用する。

- ・学校の生徒・児童の閲覧室にも音楽の読み物、雑誌及び録音と録画の資料を配備するべきで、生徒・児童が資料を収集して、教育研究使用する。

4. 学校の放送、テレビ、インターネットは音楽教育の重要な1資源であり、学校内の精神文化を構築する。これらと音楽授業を組み合わせるべきで、健康的で向上的な音楽を常に放送し、生徒・児童の音楽文化に対する視野を広げて、学校文化にとってよい雰囲気形成する。

学校のホール、大教室、マルチメディアの教室、室内の体育館なども音楽課程資源の一部分である。これらの施設を利用して、歌唱コンクール、文芸出演、教師と生徒・児童のコンサートあるいは音楽の

講座などを行う。

5. 生徒・児童の課外芸術活動は、音楽課程資源の重要な構成部分である。音楽教師はこの任務を引き受ける責任がある。学校はこの仕事を教師の作業に加える。また、設備や経費、場所については支援して保障する。

6. 校外にある各種の音楽課程資源を開発して利用する。家庭と社会の音楽環境は生徒・児童に対しての音楽愛好・美的情趣の影響を重視するべきで、積極的に指導する。

中国の伝統音楽は、民族文化の重要な構成部分である。音楽教育における当該地区の民族民間音楽の資源を運用し、幼児期から、生徒・児童に民族音楽文化を受ける影響である。

7. 各種形式の音楽と音楽教育の交流は、課程資源情報の疎通を効果的に促進することを可能にする。現代的な情報技術を積極的に開発・利用すべきであり、インターネットを利用して課程資源を交流する。

四 教材編集の提案

教材の編集は『標準』を基本とするべきであり、音楽教材には生徒・児童用の教科書、教師用の参考書、及びそれに合わせた音響の教材が含まれる。教材を編集する前に、教育行政部門に申請する必要がある。編集した後にも教育行政部門による審査を経なければ使用できない。

（一）教材編集の原則

1. 教育性の原則

教材においては思想性と芸術性を有効に結合して、音楽教育の規則を體現し、思想道德の教育に徹底する。

2. 生徒・児童を主とする原則

生徒・児童の興味、能力、必要の視点から、生徒・児童の生活経験を結び付け、生理や心理、美的認知の規則に従って、生徒・児童に音楽の感受、音楽の表現、音楽の想像、音楽文化の知識を学ぶ機会を提供する。生徒・児童たちのため、生涯学習と音楽美的素質の持続的発展ができるように、基礎を打ち立てる。

3. 科学性の原則

- ・音楽知識・技能の正確性、綿密性に留意する。
- ・生徒・児童の音楽美的認識の規則に合わせて、基礎的音楽教育の科学的な体系を作り上げる。

4. 実践性の原則

音楽の知識・技能の学習は、音楽の実践活動の中

で行われるべきであり、教材には実践活動の設計が重視されるべきである。教材の難易度や適切度は、多様な地域のレベルに適応させ、生徒・児童の全体に実践活動の参加を可能にする。

5. 総合性の原則

教材については音楽文化の内容の開発に留意し、音楽文化や姉妹芸術、その他関係する文化との協同を強化する。

6. 開放性の原則

伝統と現代、最高の作品と一般的な作品、中国の音楽文化と世界の多元的な文化との関係に正確に対応し、時代感があり、現代的な雰囲気を含む優秀な作品を取り入れることに留意する。社会生活と密接に連携して、教材の内容を豊かにし、生徒・児童の音楽視野を広げていく。

『標準』により編集した教材は、教材全体の80%-85%を、残りの15%-20%は地方教材と学校教材に任せる。

(二) 教材内容編集のための提案

1. 教材の中には、民族伝統音楽、専門家によって創作された最高の作品、優秀な新しい作品などを選ぶ。これらは教材の中で相当な比率を占めるべきである。また、国内・外の作品の比率を適切にする。教材の選択には鑑賞・歌唱・演奏・創造的活動など総合的な内容の運用が有効にできるよう、音楽に関連する文化と相互に浸透をはかる。

2. 音楽の基礎知識と基本的な技能の教育内容を音楽活動の中に有効に浸透させねばならない。音響教材においては、歌曲の範唱、歌唱伴奏、鑑賞曲、実践事例、及び教師用の相当量の準備曲が含まれることになる。

3. 教材は難易度、適切な分量を考慮して選択する。

4. 教師用の参考書には、教育目標、教材分析、教育の提案、および関連のある参考書目録等が含まれる。

内容については、教育の規則性に有効で、教師の主体性と創造性を発揮することにも有効であるよう編集しなければならない。

(三) 教材表現形式についての提案

1. 生徒・児童用の教科書においては、挿絵や文章もそろい、内容が生き生きして活発で、文字も簡明で、興味に富んだものであることが必要である。

2. 教師用の参考資料においては、文字による教師用書籍以外に、マルチメディア教育のソフトの発展を提唱する。

3. 音響教材においても、教科書の使用曲を緊密に組み合わせて、多種の方法を使用する（例えば：録音テープ、ビデオテープ、VCD など）。歌唱、演奏と録音については標準に達していることが必要である。

"Katei-Hyojun, Curriculum Standard of Music (temporary version) for compulsory education" by the Ministry of Education, People's Republic of China

MENG Yan (Graduate Course of Pedagogy, Okayama University),
OKU, Shinobu (Faculty of Education, Okayama University)

This is a Japanese version of "Katei-Hyojun, Curriculum Standard of Music (temporary version) for compulsory education" of People's Republic of China. The Ministry of Education enacted a revised version of "Kyogaku-taiko, General Principles of Teaching and Learning" in 2000. It was expected to enforce formally in 2002. The principles and construction are up-dated due to the educational situation of the country. Moreover, it presents the fundamental education policy for future. In Japan, several studies on it have already been done but most of them are fragmentary. It is very necessary to see the whole.
